

週刊

教育資料

2018年9月3日号

No.1490

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION

<http://www.kyoiku-shiryō.co.jp>

>>> 好評連載



校長講話【秋、防災、環境問題への意識を高める】小川深雪／東京都文京区立林町小学校校長

教育問題法律相談【進路変更勸奨の違法性の判断基準】佐藤香代／弁護士

特別企画【4領域7技能に分類したCEFR補遺版をどう見るか?】



▼資料【①学校施設におけるブロック塀等の安全点検等状況調査の結果について(概要)】

【②総務省における主権者教育の取組について(概要)】

◎文部科学省

▼マイオピニオン「公か、私か」が問題だ」

◎員塚茂樹／武蔵野大学教授

▼教育の危機管理「オレオレ詐欺の受け子役の処分を変更した裁判例」

◎梅澤秀監／東京都立雲台高校(定時制)主幹教諭

▼潮流「スポーツと礼儀で子どもは変わる」

◎田中日出男／公益社団法人マナーキッズプロジェクト理事長①

田中日出男

たなか・ひでお◎昭和15年、兵庫県生まれ。早稲田大学第一法学部卒業後、三菱化成(現・三菱ケミカル)(株)入社。平成10年、三菱化学(株)常務取締役。同12年江本工業株式会社取締役社長。同14年(株)インパクト・コンサルティング顧問。平成8年から早稲田大学庭球部小学生テニス教室を開始。同17年に財団法人日本テニス協会幼稚園・小学校マナーキッズテニスプロジェクトディレクター。同19年6月にNPO法人マナーキッズプロジェクト理事長。同26年10月から公益社団法人化し、理事長に。



潮流

潮流◆題字奥野誠亮

公益社団法人マナーキッズプロジェクト
理事長

田中日出男氏に聞く①

スポーツと礼儀で 子どもは変わる

スポーツや文化活動に親しみながら
挨拶や礼儀作法も学ぶなど、
「体」「徳」「知」のバランスのとれた
人間になることを支援してきたという。

体・徳・知のバランスがとれた人材育成

——マナーキッズプロジェクトとはどういう活動なのか。

人間として基本的なマナーやルールに欠けていたり、私的空間と公的空間のけじめ感覚がない、他人と深く関わろうとしない、学習だけでなく何事にも意欲が湧かない、さらには体力や運動能力の面でもひ弱になった子ども・若者が増えつつあります。こうした現状を何とかしたいと、スポーツや文化活動に親しみながら、日本の伝統的な礼法を体験したり、マナーやルールを守り、物を大切にする気持ちを養うなど、「体」「徳」「知」のバランスがとれた人材育成をすすめるというものです。おかげさまで、多くの方々の賛同を受けて、これまで35万人を超える子どもたちが参加する活動になりました。

——礼儀作法を教える機会が必要と感じたのはどうしてですか。

学生時代にテニスをやっていたので、平成8年から早稲田大学庭球部で小学生対象のテニス教室を始めたことがきっかけになりました。そのころ、私は会社勤めをしていましたが、従業員同士、あるいは上司と部下が互いに挨拶をしていないことに気付

きました。どうしてなのかを考えているとき、近所の小学校でも先生が校門に立っているのに、先生が「おはよう」と声をかけないと子どもたちも黙って通る姿を見て、挨拶という基本的なマナーが家庭や学校できちんと教えられていないのでは、と感じました。

そこで、テニス教室では、テニスの楽しさと同時に、礼儀作法も学べる機会にしたいと考えました。仕事の関係でお目にかかる機会があり、背筋が真っ直ぐで立ち居振る舞いも美しい前田利祐氏(前田家18代当主)をお願いして礼儀作法について教えていただき、その後、前田氏のご紹介で礼法の専門家である小笠原流礼法の鈴木万亀子総師範にご指導していただくようになりました。

——テニス教室での活動から現在の公益社団法人になるまでの経緯は。

テニス教室で、子どもたちが変わっていく姿に手応えを感じて、平成17年から公益財団法人日本テニス協会でもマナーキッズプロジェクトができました。同19年にNPO法人マナーキッズプロジェクトを設立し、同26年からは公益社団法人となって広く活動を進めています。

なお、「マナーキッズ教室」は、レガシイ共創協議会プロジェクトの「ヘルス&マ

ナーコミュニティ」活動として実施しており、「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会の事務局としての活動も進めています。

体育・道徳融合授業として出前形式で

——マナーキッズプロジェクトによるショートテニスの教室を実施されています。

ショートテニスは、スポンジのボールと短くて軽い子ども用ラケットを使って行います。ボールは目に当たっても痛くありませんし、スピードが遅くなるので、運動が苦手な子どもでもラリーを楽しめるようになります。幼稚園児の場合は、さらに安全な「てのひらテニスラケット」を使っています。このショートテニス教室を活用した小学校での体育・道徳融合授業も出前形式で行っています。小学生を対象に1〜2コマで実施するものです。

1〜2コマ(45〜90分)の場合、①開講式②「美しい姿勢・お辞儀・挨拶の仕方」の練習(中休みの時間帯などを活用)③ショートテニスの練習④後片付け⑤閉校式⑥感想文提出⑦マナーキッズ教室のフォロー、という流れで実施しています。例えば、開講式は整列して姿勢を正しくして相手の目を見ながら元気よく大きな声で「〇〇です。よろしくお願いします」と自己紹介します。

後片付けでは、最後に全員で雑巾がけをします。なお、練習前の準備運動として、「マナーキッズ体幹遊び」を紹介したり、授業後も学校や家庭でのフォローに役立つ「マナーキッズ」調べの活用を呼び掛けています。具体的な活動例については、ホームページで動画なども紹介していますので、ご覧いただきたいと思います。

——マナーキッズ体幹遊びとはどういうものですか。

これは、日本サッカー協会相談役の川淵三郎氏が発案者です。体幹を鍛える運動は、正しい姿勢やお辞儀の仕方には欠かせないものです。例えば、2人1組になって、タオルを引っ張り合ったり、片足で立った状態で押し合ったりする「ケンケン相撲」、クマやアザラシをまねた「動物歩き」などがあります。

体幹とは、頭と手足を除いた胴体の部分を指します。幹とは主に背骨から腰にあたる脊柱で、その体幹部の筋肉をしっかりと鍛えることで、姿勢が安定します。なお、当法人では「マナーキッズ体幹遊び 手引・36事例集」を作成していますので、学校や家庭などで活用していただきたいと思います。また、この冊子では、活動の始めと終わりの挨拶を通して体幹を鍛える方法(起

立、礼、着席の仕方）や、小笠原流礼法による正しい姿勢やお辞儀・挨拶の仕方のポイントなども解説しています。学校では、授業の開始時や終了時、朝の会での運動タイム、体育の時間の冒頭5分以内などで活用していただきたいと思います。

——「マナーキッズ」調べについて、ねらいや活用法は。

これは、明石要一・千葉敬愛短期大学学長にご提言をいただいたものです。その目的は、幼児期や小学校期に身につけたい言葉、美しいお辞儀・挨拶、歩き方・姿勢、生活、社会規範を明確にして、それに向かって本人や保護者、教師が一体となって取り組み、次代を担う子どもたちが将来、世界各国の人々から尊敬される日本人になる一助にすることです。当法人で作成している、小1～4年生用の「帳票」の場合、言葉編では「朝は『おはようございます』と言っています」など10項目に「はい」「どちらともつかない」「いいえ」の欄を塗りつぶして、点数化できるようにしています。合計で50項目あり、子どもたちが自分で自己採点します。全部が「はい」の場合は100点になります。この帳票を保護者や先生にも見せて、1回目の得点が60点だった場合は、一定の期間を経て次の目標を80

点などと設定します。その目標に向かって自分が「いいえ」を選択した項目の中から実施する項目を決めて、「今週はこの項目」などと、チャレンジする目標を決めます。

マナーキッズ講師の育成も

——マナーキッズ教室は学校での事例が多いようですが、自治体単位でこうした取り組みを進めているケースはありますか。

東京オリンピック・パラリンピックなど国際的なスポーツ大会を契機に、レガシー（遺産）を後の世代にどう残していくかが課題になっています。先ほど述べましたように、行政や分野の違いを超えた新しいプロジェクトを提案しているレガシー共創協議会のプログラムとして、私たちのマナーキッズ教室が「ヘルス&マナーコミュニティ」活動として実施されることになりました。この第1号モデル事業が東京都墨田区の「おもてなしの心」発信事業で、第2号モデルが茨城県常総市の「おもてなしの心」発信事業となっています。行政の縦割りの限界を超えて、1中学校区の中の幼稚園・保育園、小学校、中学校などでマナーキッズ教室、マナーキッズ体幹遊び、「マナーキッズ」調べを実施しています。

また、私たちの団体だけでは限界があ

りますので、マナーキッズ講師養成講習会などもこれまで、全国で32回、実施してきました。校長先生や学校や保育園などの先生、スポーツ指導者の方などを対象に、正しい姿勢やお辞儀・挨拶の仕方、マナーキッズ体幹遊びなどの司会進行の要領を学んでいただける場も作っています。マナーキッズ講師が増えることで、マナーキッズの輪をさらに広げて行きたいと思っています。

——マナーキッズ教室を実施した学校などからはどんな声がありましたか。

学力の向上に力を入れている教育委員会が多いと思います。東京都の品川区で「市民科」の内容にマナーキッズを取り入れた学校の校長先生からは、学力定着度調査の結果で、学習規律や生活規律が身に付いている児童や意識して実施しようとしている児童は、そうでない児童よりも大きく学力が向上していたと聞いています。このほか、道徳の授業に取り入れて、子どもたちの意識や行動が変わったなどの事例もあります。学習規律や生活規律の確立の面からも、マナーキッズで学んだ礼法や体幹遊びなどが役立っている、などといった声が寄せられています。

公益社団法人マナーキッズプロジェクトⅡ
<http://www.mannerkids.org/>